



令和2年度 7月人権一口講座



人権一口講座

地域や人に寄り添う職員でありたい

「あのう、すみません」と道端の金網フェンスにもたれ掛っているおばあちゃんから声をかけられた。「どうなさいましたか？」と言いなから近寄ると、病院に行った帰り道で急に立ちくらみがし、誰かが通るのを待っていたと、力ない声で返してくれた。

「支えてくれたら家まで帰れますので、お願いできますか？」と言われ、両手に下げていたバックと荷物を左手に持ち替え、右手でふらついたおばあちゃんをぐいっと抱え上げ、私に体重をかけてもらって歩き始めた。

「すみません、すみません。こんなことは初めてで、ご迷惑をおかけします。」とすまなそうに言われたので、「いやあ、私が通りかかって良かったです。お宅までお連れしますよ。」と明るい声で返した。昼休憩の時間にお弁当を買おうと、館（ふれあい文化センター）から出かけての帰り道であった。

「この先の角を左に曲がって、少し歩くと自動販売機があつて、先の細い道に入っていきます…」私と歩き始めるとおばあちゃんの声が少し力強くなってきた。ゆっくりゆっくりと、右に左に角々を曲がりながらしばらく歩き、おばあちゃんの自宅に着いた。

「ここまでありがとうございました。お名前を教えてください。」と言われ、ふれあい文化センターの職員であることを伝えた。

私がふれあい文化センターに勤務してちょうど1年。地域の方々と数多くのふれあいが持てた。多くの事を伝えようとする「せからしか」と、そして話に相槌を打たないと「なんて生意気な」と言われたことも時にはある。しかし実は、どなたも話し相手を求めている。どこかさみしい気持ちを抱かれていたようだった。

先月までは市内に蔓延する感染症拡大防止のため、諸施設が休館していた。当センターも休館中であったが、相談業務だけは継続して行っていた。日に数回は館の自動ドアが開き、「お風呂はまだ再開しませんか。」と尋ねられたり、一人暮らしの方などは自身の事をひとしきり話し、満足して帰る方もいた。

このふれあい文化センターは福祉の拠点であったり人権についての学びができる施設であったりする。その特性を生かしつつ、地域の方々々の生活環境や人権を守りながら寄り添っていく施設職員として、これからも仕事に向き合いたいと思っている。

〔熊本市ふれあい文化センター広報紙〕かけはし「令和2年度7月号」P.5

短いメッセージ

ありがとう 試合でエラーしたとき
「どんまい。」と言われてほっとしたよ

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会 人権カレンダー 黒髪小学校1年 守田さくらさん（平成30年度の作品より）